

福島市立飯野小学校

教科名等：学級活動
単元(題材)名：男女なかよく
学 年：第3学年

実施状況

3年生は昨年度、性教育「おへそのひみつ」で、命の始まりやおへその役割について、養護教諭による授業を受けている。人間は、男・女の2つの性がある。もちろん生物学的な機能の違いは考慮する必要がある。しかし、「男だから」「女だから」という理由ではなく、同じ人間として、お互いに思いやりと優しさを持って、協力し合っていける関係について考えさせたい。



児童・生徒の感想

- ・ 男の子にも女の子にもよいところや直したほうがよいところあることがわかった。だから、男の子だから、女の子だからといわないで、仲よくしたい。
- ・ みんなが仲よくするためには、相手のいやがることを言ったり、したりしないようにする。
- ・ 悪いところばかりではなく、友達のよいところを見つけるようにする。
- ・ たたいたり、けったりすると相手がきずつくのでやめる。
- ・ グループなどをつくるときは、みんなで協力する。

参観者の感想

- ・ 少しずつ男女の違いを感じ始めるこの時期に、こうした機会があるということは、子どもたちも幸せだと感じました。男女仲よく生活することだけではなく、人としてお互いのよさを認め合い、思い考えることはとても大切なことだと思います。こうした思いは、自分を大切にし、命を尊ぶことにも結びついていくように思います。
- ・ 親として、つい口にしてしまう「男の子だから、女の子だから～しなさい」という言葉かけが、自然に子どもに「男女の別」の意識を植え付けていくように感じたので、日常の小さな言葉かけにも心を配ることができるといいのかな・・・と考えさせられました。

指導者の感想

- ・ 男女の違いやよさ、直してほしいことなどをどの子にも十分時間をかけて考えさせることができ、自分の意見をまとめることができていた。また、自らの考えを振り返る時間があり、学級活動のよさが生かされていた。
- ・ 子どもたちの生活と密接に関連している内容だったので、家庭生活や学校生活を振り返る機会になった。ティーム・ティーチングの機能が生かされていた。
- ・ 3年生のこの時期に「男女なかよく」のテーマで授業を行うことは、発達段階に適していたと思われる。今後は、自分らしさを発揮し、相手の個性を尊重しながら生きていくことが大切であるという視点から、学年に応じた指導をしていく必要がある。

二本松市立安達中学校

教科名等：学級活動

単元(題材)名：男らしさ・女らしさ そして、自分らしさ
学 年：第2学年

実施状況

〈ねらい〉

男女の「らしさ」からそれぞれのよさとともに性差を超えた「自分らしさ」の大切さに気づくことができる。

〈授業内容〉

- ・ 10個の「男女のイメージや固定概念にとらわれた具体的事例」をカードで示し、立場を明らかにしてそれに対する考えをグループで話し合わせた。
- ・ グループで問題となった点について全体で取り上げ、男女に抱くイメージやそのことにこだわらない「その人らしさ」を尊重する大切さについて考えた。
- ・ 本時の話し合いで思ったこと、新たに気づいたことについて感想をまとめた。



児童・生徒の感想

- ・ 今日の授業で、あらためて「男らしさ」「女らしさ」は性別が違うことや見た目が違うということとは関係ないのではないかと思った。個性や自分のやりたいことを「男だから」「女だから」というイメージでこわしてしまうのは変だと思う。一人一人の個性や好きなことを尊重することを大切にしたいと思った。
- ・ 男女には特長もあるので、男らしさ・女らしさも大切だけど、いちいちそれに縛られる必要はないと思う。
- ・ 男の人が編み物をしたりあかいTシャツを着ても変じゃないのかもしれないと思った。

参観者の感想

- ・ 私たちの身の回りで起きる日常的な出来事の中にも、「男だったら…」「女らしく…」など、男女の在り方や役割に対するそれぞれのイメージがあることを、カードに書かれた10個の事例を「肯定」「否定」「どちらともいえない」という立場から話し合う場を設け、意見交流できたことは、性差を配慮した上で互いのよさと共にそれを越えた「自分らしさ」を考えるよい機会となっていた。
- ・ 自分の身近なところに目を向け、その中で自己決定ができる内容になっていたので、学級活動のねらいに合致していた。
- ・ 話し合いの中で生徒一人一人の思いが語られていた。教科や道徳の時間の学習との関連で、問題になっている事象の背景や立場についても話し合うことで視野を広げることもできる。

指導者の感想

- ・ 身近な事例を取り上げたことや男女混合のグループで話し合わせたことで、現代社会にある男女に対する固定概念の現状に気づいたり、興味関心を深めたりする生徒が多かった。
- ・ 男女の性差を踏まえた上での平等な立場や、よりよい社会生活を送るために協力する姿、また、その根底にある個人のよさや個性の尊重について考えるきっかけ作りになったと思う。
- ・ 今後は、現代における社会的な背景や人権・人種問題等に視野を広げていけるように、道徳の時間や学級活動とも関連させ、考える機会を設けていけたらと思う。

県立福島西高等学校

教科名等：公民科「現代社会」

単元(題材)名：「みんなで築こう男女共同参画社会」

学 年：第1学年

実施状況

前時までの進路選択、少子高齢社会についての学習をもとに、男女で社会を築くとはどんなことなのか考察するきっかけを提示した。具体的には、アンケートやジェンダーについての自由記述など、生徒の活動の中からポイントを見出し、それをもとに考察させるよう工夫した。

また、アンケートの集計や自由記述からの抽出など、各場面において生徒が主体的に活動する場を多く設けることにより、自発的な学習への雰囲気をつくるとともに、指導者による方向付けを避ける展開とした。

児童・生徒の感想

男女共同参画社会に向けての動きの中で育ってきた生徒達らしく、これまでのジェンダー意識を比較的冷静に見つめるとともに、変化しつつある側面をも事実として捉える感想が多かった。

生徒は、答えのないテーマであることを認識しているらしく、例えば、イベントにおける花束贈呈やレディースデーはあっても男性のそういうものはほとんどなく、その一方で職業における性別の壁が少し低くなっている実態などを記述していた。

参観者の感想

- ・ 男女共同参画社会を築くための法律や制度を資料によって確認させるとともに、ジェンダーが歴史的に醸成されてきたことを昔話やポーランド民謡によって考察させるなど、大変すばらしい授業で有意義な時間を過ごすことができました。
- ・ 生徒達もグループで話し合ったことを発言したりして積極的に授業に参加している姿に好感を持ちました。

指導者の感想

答えが定まっているテーマではないので、一方的な結論付けを避けた。その意味では、知識として押さえるものが少ないだけに難しい教材であった。

また、音楽を聴かせたり、生徒の活動や考察をもとに展開したりする授業は、その重要性を認識しつつもなかなかできない授業形態なので、私にとっても学ぶよい機会となった。

田村市立古道小学校

教科名等：学級活動

単元(題材)名：わたしができるおてつだい

学 年：第1学年

実施状況

9月6日(日)の日曜参観(ふれあい参観)の日に公開授業を実施したので、両親での参加が多く、ほとんどの保護者に参観してもらうことができました。

最初に、「夕飯の支度をしているところへ来た訪問者に『お母さんはいません』と子どもが答えたのはなぜか」というクイズを出して、保護者にも一緒に考えてもらい、食事の支度は父親も行うことに気付かせようとしたのですが、なかなか正解は出ませんでした。

「夏休みのお手伝いランキング」では、誰がやったのか手を挙げてもらうことにより、男の子の仕事、女の子の仕事などと区別がないことを確認しました。

夏休みのお手伝いに対するおうちの人からのメッセージの紹介を通して、お手伝いすることの大切さに気付かせ、これからやるお手伝いを考える意欲付けとしました。そして、家族のために自分ができるお手伝いを考え、シートに記入しました。

最後のまとめのクイズでは、「洗濯しているのは、お父さんだ」と、今度は、みんな簡単に答えがわかったので、男は仕事、女は家事というような固定概念が、少しでも改善されたのではないかとうれしく思いました。

児童・生徒の感想

感想をシートに書いたりしなかったのですが、みんな自分がやろうと決めたお手伝いを、「今日からやるんだ」と意欲満々の様子でした。

参観者の感想

- ・ 難しい課題でしたが、学校及び家庭の両方で子どもと話し合い、理解することができたと思いました。夏休みのお手伝いを振り返り男女共同参画まで理解させる授業の手法に驚かされました。
- ・ 男女、親子にこだわらず、何でも出来ることを実行しようと思う。出来ることの楽しさ、素晴らしさを子どもにも感じてほしい。
- ・ 以前より出来る限り家事を実施しているため、(父親が)、子どもにとってはそれほど違和感を感じていないようです。今後も男女関係に隔たりを持たず実施していきたいと思います。

指導者の感想

男女共同参画社会の形成は、これからますます重要視されていくべきものと考えます。低学年の段階から、男は仕事、女は家事というような固定概念にとらわれずに家庭生活が送れるようこれからも支援していきたいと思います。



田村市立古道小学校

教科名等：道徳

単元(題材)名：たのもしなお父さん

「おとうさんは、なおい名人」

学 年：第2学年

実施状況

まず、家庭でのお手伝いについて話し合い、進んで家の手伝いなどを行っている経験を思い出させ、自分が家族の役に立っているという喜びを感じられるようにしました。その後、教材文を読み、父親が、家族のために一生懸命働く姿や、地域の人から頼りにされている様子を見たときの主人公の気持ちを考えました。最後に、家族の家庭での仕事について思い出させ、家族が自分の家庭生活を様々な場面で支えてくれていることに気づかせ、感謝の気持ちを持てるようにしました。家族にもその気持ちや気づきを知らせられるよう、自分たちの気持ちを手紙に書きました。

児童・生徒の感想

- ・ お父さんは、お母さんの帰りが遅い時にご飯を作ってくれます。とてもおいしいので、これからも、お父さんの作ったご飯が食べたいです。
- ・ お母さんは、仕事から帰ってきて、いろいろな仕事をしているので大変だなと思います。これからは、できるお手伝いをしようと思います。
- ・ ぼくは、よくお母さんから料理を教えてもらいます。今度は、家族にぼくの作った料理を食べて欲しいと思います。

参観者の感想

- ・ 親が仕事をしている姿を見て、子どもが進んで手伝おうという気持ちになってくれたらいいと思いました。
- ・ 子どもにもできそうなことは、何でもやらせてみたいと思いました。
- ・ 男性・女性の役割をあまり意識しないようにしていきたいと考えています。
- ・ まだ、「男女共同」という言葉に慣れていない大人もいるので、子どものうちから授業などで考える場を持てるのはいいことだと思います。

指導者の感想

普段は、家族の支えがあって自分の生活が成り立っているとは考える機会があまりないと思います。この学習を通して、家族に感謝の気持ちを持つことができたと思います。授業参観日ということもあり、家族が児童の発表を聞くこともできたので、家族にとっても励みになったように思いました。また、自分も家族の一員であり、できる手伝いをしていきたいと思った児童もあり、親子で今後の家庭生活を考えるきっかけ作りができたのではないかと思います。

実施状況

9月6日(日)の日曜参観の日に公開授業を実施し、保護者全員やその他の参観者が多数ありました。

男の子と女の子のそれぞれのよさを見つけることで、協力して生活できることを念頭に置きながら授業を構想しました。男女の特性や男女特有のよさに触れながらも、男の子がやること女の子がやることなどといった固定観念にとらわれないような考え方が大切であることをおさえるようにしました。

ワークシートを効果的に用い、自分の持っているイメージを確認し、それをクラス全体で話し合ったり、これまでの生活を振り返って男女それぞれのよいところを出し合ったりしました。最後に男子は女子に、女子は男子に互いのよいところを書いて本人に渡すことにより、互いに認め合っているという気持ちを大切にさせ、男女が協力して生活していこうとする意欲をさらに高められるようにすることができました。

児童・生徒の感想

- ・ 今まで、これは男の人がやること、女の人がやることと思っていましたが、そんなことはないことが分かって楽しかったです。
- ・ ぼくは、自分の気がつかないところを女の子に〇〇がよいと書いてもらって、うれしかったです。ぼくもその人のよいところをもっと見つけてみようと思いました。
- ・ 男の人と女の人が力を合わせて生活すると楽しいことがもっと多くなると思いました。

参観者の感想

- ・ とても分かりやすく教えてもらったのでよかったです。
- ・ 今後、男子も女子も差別をしない(仕事のことで)ことを話し合っていきたいと思います。
- ・ 男女共同参画社会と言っても、実際は男女の差別や偏見があるのが現状だと思いましたが、お互いの立場を理解したり、男女が積極的に社会に参加したりしていくことが大切だと思いました。

指導者の感想

初めに、児童のありのままの思いや考えを確認し、黒板を使ってまとめ、それをもとにクラス全体で話し合いましたが、話し合いの内容をその後の学習活動に結びつけることができたと思います。最後の一人一人のよさを書くことは、児童にとって難しかったようでしたが、自分のよさを認めてもらった児童はとてもうれしそうで、男女が協力して生活していこうという気持ちを改めてもつことができたのではないかと思います。



田村市立古道小学校

教科名等：道徳

単元(題材)名：ぼくらだってオーケストラ

学 年：第4学年

実施状況

9月6日(日)の授業参観日に合わせて公開授業を実施し、保護者の方々に参観していただきました。

本時は、男女が互いを理解し、信頼することの大切さに気づき、助け合おうとする気持ちを育てることをねらいとしました。事前に友達に関するアンケートをとったところ、良い友達であるためには、困ったときに助け合うこと、親切にすること、されたくないことはしないことなどの考えが出されました。

教材文の概要は、リコーダーの得意な女子が苦手な男子に真剣に吹き方を教えるというもので、男子は初めのうちは練習に対して消極的でしたが、自分がどんどんできるようになり、最後には教えてくれた女子と心が通い合うという内容です。吹き出し式のワークシートを活用し、男子の気持ちの変化を考えさせました。性別に関係なく、自分の得意なことを教えてあげたり、自分のよさを生かしたりすることが大切であることに気づかせることができました。

児童・生徒の感想

- ・ 何かができない時や困っている時は、助け合い、教え合えばみんなできないことができるようになるということがわかりました。みんなで助け合い、教え合いながらがんばっていきたいと思います。
- ・ 自分が本気で教えれば、相手も本気で聞いてくれるので、それで友情が深まっていくのかなと思いました。
- ・ 自分が得意なことは教えてあげたり、相手が困っているときに助けてあげたりすることで、少しずつ心が通い合っていくんだなと思いました。
- ・ 男の子だから、女の子だからではなく、男女仲良くしていくことが大切だと思いました。

参観者の感想

- ・ 男女差別なく、どんな事でも協力をしながら取り組んでいければ良いと思います。
- ・ 「困ったときは助け合いながら」これは将来、仕事に就いてからも大切な事だと思います。
- ・ 今回の授業で取り上げた内容は、男・女というよりは個性の違いのような気がして、男だから、女だからというものではなかったのではと感じました。自分が4年生ぐらいの時に、男女を意識することが生活面でどんなことだったかなと考えています。
- ・ 家で子どもと今日の授業のことについて話してみたいと思います。

指導者の感想

本学級は男子と女子は仲が良く、一緒に遊んだり活動したりしています。今回の授業を通して、子ども達は、友情は信頼し合うこと、教え合うことが大事であり、男女の性別には関係ないことが分かったようです。



田村市立古道小学校

教科名等：道徳

単元(題材)名：おとうさんのおべんとう（家族愛）

学 年：第5学年

実施状況

9月6日（日）の日曜参観の日に公開授業を実施し、多くの保護者の参観がありました。

家族愛については、家族の構成員それぞれの立場や心のつながりを大切にして、明るく生きていこうとする心情の育成が大切と考えました。

そこで、本時では、まず、自分の家の家事の分担を表にすることにより、母や父の家事内容の特徴をとらえさせました。さらに資料を読み取り、父の行動に隠された家族への思いを読みとることができたようです。

性別に関係なく家事を分担する父の姿から、自分も家族のためにできることをしていきたいと答える児童の反応が多かったです。

児童・生徒の感想

- ・ 資料の中のお父さんはお母さんやぼくのためによく頑張っていると思いました。
- ・ お父さんの気持ちを考えられなかったぼくが、最後にはお父さんが弁当を作ってくれたことに感謝していて良かったです。
- ・ 料理が不得意なのにお父さんはよく頑張ったなと思いました。
- ・ お母さんの家事の仕事が多いので手伝ってみたいです。
- ・ 家では、ぼくの仕事が少ないのでできることを考えてやってみたいです。

参観者の感想

- ・ 今回の授業参観を通して、家族で家の中の役割について話し合うきっかけになりました。
- ・ 性差は基本的にあるので、性に応じた役割分担や家族同士の助け合いを考えてみたいです。
- ・ 授業の意図は理解できたので、実際の家庭でどう考え実践していくかについて考えさせられました。

指導者の感想

ジェンダーや男女共同参画社会と大きく構えることなく授業を構成したつもりでしたが、どうしても男女差について取り上げざるをえない授業展開になってしまいました。男女差について、あまり意識せず家族愛を考えさせてみたいです。



実施状況

9月6日(日)の日曜参観の日に公開授業を実施し、保護者など多数の参観がありました。

身の回りにあるジェンダーに気付かせるとともに、「男らしさ」「女らしさ」という概念は、社会構造の中で作られたものであることに気付かせ、女だから男だからではなく、一人の人間としてより良い生き方、正しい生き方ができるよう指導していきたいと考えました。

まず自分の中に少なからず存在している性差による固定化された役割意識について知り、友だちとの意見の相違に気づいたり性差による差別について知ったりするために、ランドセルや洋服の色について考えてみました。また、普段自分たちが感じていることを話し合う中で、男子は女子の気持ちを、女子は男子の気持ちを理解しあうことができ、既成の価値観や思い込みにとらわれずに自他の個性を多面的に見たり、考えたりすることができました。

児童・生徒の感想

- ・ 男・女じゃなく、個性を大切にしていくことが大事だと思いました。
- ・ 昔に比べて、今は男女の差別がなくなってきたことがわかりました。
- ・ ランドセルの色など、普段あまり意識していなかったけれど男らしいとか女らしいという気持ちで色を決めていたことがわかりました。
- ・ 男同士、女同士のグループで話し合ってみて、自分たちの気持ちを相手に知ってもらうことができたし、相手がどんな気持ちでいるのかがわかりました。

参観者の感想

- ・ 今回の授業を参観して、男女の役割や個性を大切にすることについて家庭で話し合うきっかけとなりました。
- ・ 男らしさ、女らしさにこだわらず、役割分担しそれぞれの良さを大切にしていくことが必要だと思いました。
- ・ 男女の差がなくなってきたことについて、これからもっとたくさんの事例を教えてほしいと思いました。

指導者の感想

全体での話し合いの中で、「それは個性だから」という言葉がたくさんでてきました。男だから、女だからという意識から、良い面はもちろん悪い面も含めてお互いの個性を大切にしようとする気持ちが授業を通して芽生えてきたように感じられます。

男女の人数差の大きい学級なので、意見の交流は難しいのではないかと考えていましたが、お互いに自分たちの考えを出し合い、そして相手の立場に立って考えることができました。

今後も、それぞれの良さや個性を認め合うことのできる学級経営をしていきたいと思います。



実施状況

男女平等の視点に立った職業観についての考えを深め、自分らしい生き方をしようとする態度を育てたいという思いから授業展開の仕方を考えました。価値の導入をクイズ形式にすることで、職業によって、「これは男性の仕事」、「これは女性の仕事」という意識を少なからず持っていることに気づかせることができました。職業に「男性の仕事」・「女性の仕事」という区別は必要かという質問に対しての考えを発表させ、価値の揺さぶりを図りました。その後、男女雇用機会均等法を提示し、求人広告上の誤りを訂正する活動を取り入れることにより、差別について考えさせました。また、どうして男女の雇用機会を均等にすることが必要となっているのかを考えさせることで、性別の違いよりもその人自身のやる気や希望、能力などのよさが生かせるようにすることが大切であることに気づかせたいと考えました。

児童・生徒の感想

- ・ 私は、初めは性別による職業の区別が必要だと思っていました。でも、今日の授業で考えてみて、性別にこだわらずに自分のやりたい職業につくことが大切だと思いました。
- ・ 男性の仕事、女性の仕事というイメージを気にする人もまだいるけれど、イメージを気にしないで誰もがやりたい仕事につけることが広がるといいなと思いました。
- ・ 力仕事は男性がやるというイメージがあったけれど、女性で力仕事がしたいと思う人がいればやっていいと思います。この授業を通して、仕事に性別の違いは関係ないと自分の考えを改めることができました。

参観者の感想

- ・ 日常生活の中の、性別による差別は、何となく分かっているのだと思うのですが、職業について性別に差別があるという意識が弱いように思います。今日の授業は、近い将来、社会に出て働くことになる子どもたちにとって、とても大切なものだと思います。機会あるごとに指導していただければと思います。
- ・ 導入のクイズは、生徒の先入観を上手に使った内容でとてもよかったと思います。「男だから」、「女だから」と昔はよく言われていたが、現在は生徒の反応からあまり言われなくなってきていると感じました。そういった意味では、男女共同参画社会が理解されてきていると思いました。価値の追求の場面で、もっと生徒同士の意見交換の時間をとり、価値について深めていけるとよかったのではないかと思います。

指導者の感想

「女だから、男だから」ではなく、自分のよさを見つけ、自分の個性を生かすことができる将来の仕事を選択しようとするのが大切です。そのような視点に立った職業観を深めさせ、自分の生き方について考えさせたいと思いこの授業を構成しました。「大型トラックの運転手は男性の仕事」といった職業への先入観をもとに、どうしてその仕事がそういったイメージなのかを考えさせることにより、職業選択のなかにある区別とは違う差別に目を向けさせることができたのではないかと感じました。また、男女が同じ職場で共に働くことのよさなども例をあげて紹介することで、自分らしさを生かせる職業選択をしたいという意欲がより高まったように思います。

県立郡山高等学校

教科名等：公民科「現代社会」

単元(題材)名：豊かな生活を目指して

学 年：第1学年

実施状況

世界経済フォーラムが発表している「男女平等指数ランキング」を紹介し、経済面・政治面・教育面から男女格差にかかわる資料を読みとらせた。そこで、日本が男女格差の大きい国であることを認識させ、「男女平等指数ランキングをトップ10入りさせる方法を考えよう」というテーマを掲げグループ学習（6人～7人の班 6班）を実施した。（グループ＝政党とし、自分たちが政治家だったらどのような政策を展開するか、マニフェストを考えさせた。）その際、多くの生徒の意見を反映させ、それぞれの意見を尊重しながら課題解決に迫らせることで自己存在感や協働の喜びを味わわせたいと考え、KJ法を取り入れた。

児童・生徒の感想

- ・ 今回の授業にとっても興味がありました。それは、自分の就きたい職業も男性がほとんどの仕事だからです。女性も男性と同じように仕事に対する意欲や能力を持っています。私は女性と男性のよい能力を組み合わせれば何だって良くなると思います。
- ・ 今回の授業で男女共同参画社会の実現のためにみんなでマニフェストを考えたり、どうすればよいのか考えることによって、これからの社会で大切なことは、どれだけ男女が互いを尊重しあい、よい関係を築いていけるかが大切だと思いました。
- ・ 授業の内容は自分たちで政党を作ったり、たくさん意見を書いたりなど斬新な授業で楽しかったです。いつもはあまり意見が言えない人もたくさん紙に意見を出せたのがすごく良い授業だなあと感じました。
- ・ 今まで男女の格差は仕方がないことだと思っていましたが、やはり、仕方がないことではなくこれから私たちが改善していかなければいけないことだと思いました。

参観者の感想

- ・ 生徒が生き生きと授業に取り組んでおり、積極的に意見を出し合っていたと思います。ただ、もう少し時間が取れるとよかったのではないかと感じました。
- ・ クラス全員が積極的に授業に参加しており、その熱気に圧倒されました。グループディスカッションやKJ法は周知な計画や準備が必要なので遠慮しがちだったのですが、今回の授業を参観してこのように生徒が生き生きと取り組めるのなら自分も挑戦してみたいと思いました。
- ・ 先生がひとりで授業を進めるのではなく、生徒がきちんと授業に参加してディスカッションしているのが印象的でした。友人たちと話し合いながら自分たちで答えを見つけていくうちに自然と知識が身についているように思います。

指導者の感想

生徒たちの感想の中に、「日本は豊かな国であり男女格差が比較的少ない国であると考えていたが、現実を知りショックを受けた。」というものがあつた。実際に政治・経済・教育の面から他国と比較し、日本の現状を知った上で問題解決学習に取り組めたことは、男女共同参画社会に関する価値の再構築をはかるのに有効であった。さらにKJ法を用いたことで、身近な課題に対して生徒が自分の意見を持ち、さらに他の意見を尊重しながら、自分達に何ができるのかを考えさせることができた。今後も生徒の意見を積極的に取り入れる授業を展開し、真の意味での「豊かさ」について生徒たちとともに考えていきたい。

実施状況

- ◇ ねらい・・・互いに信頼し合い、学び合って友情を深め、男女仲良く協力し合って、助け合おうとする心情を育てる。
- ◇ 授業の流れ
 1. 導入・・・「握手ゲーム」をした後、学級の男子女子についてどう思っているか発表し合う。
 2. 展開・・・① 資料「心のレシーブ」を読んで話し合う。
(資料)・・・クラス対抗のソフトバレーボール大会出場に向けて練習する女子二人と男子二人の話である。運動が得意な女子に比べ、運動が苦手な男子。練習してもなかなかうまくいかない良夫に対して不満を持つ陽子の心の動きを考える。しかし、陽子の見えないところで一生懸命練習していた良夫のことを知り、チームが一つになっていく。そんな陽子の心の変化をとらえさせながら、お互いのよさを認め合い、仲間が信頼し合う大切さについて考える。
② 「5年1組心のサーブ」を行い、男女の協力について考える。
 3. 終末・・・心のノート「ともだちっていいよね」を読み、友達のよさについて感じさせる。

児童・生徒の感想

- ・ 何か苦手な友達がいても、励まし合って、頑張っていかなければならないと思った。みんなで力を合わせていろんなことをやるのがいいと感じた。(男子)
- ・ できなかったことを責めることなく、優しく教えてあげることがよいと思った。一緒に頑張っていることがとてもよいことだとわかった。男女が協力することはいいことだ。(女子)
- ・ 私もこの話の陽子と同じように友達に強く言いすぎるところがある。授業を通して「男子と女子は分かり合える」ということがわかった。今度から話をする前に、少し考えてから話をしようと思った。(女子)

参観者の感想

- ・ 教師の投げかけを真剣に受け止め、自分の考えを持って表現し、お互いに共有しようとする姿がたくさん見られた。また、答えを資料から読み取ることができる発問と想像して考える発問に区別し、意識して問いかければ、子どもたちの心はより耕されるであろう。(中学校教師)
- ・ 発達段階で男女の接し方が変わるの仕方がないが、一人の人間としてお互いを尊重していくことの大切さを改めて感じる事ができた。(保護者)

指導者の感想

思いやりのなさから相手を傷つけるような発言をする反面、男女それぞれによいところも見いだしていることも分かった。授業を通して、資料の登場人物の気持ちに共感させることにより、自分の行動を振り返ったり、今後どのように接していったりすることが必要かを感じさせることができた。多くの児童が、協力することやお互いを思いやることの大切さについて理解できたようである。実践に結びつけられるように支援していきたい。

喜多方市立第一中学校

教科名等：学級活動

単元(題材)名：「女らしさ」「男らしさ」ってなんだろう
学 年：第2学年

実施状況

男女共同参画教材（「次代の親づくり推進啓発プロジェクト『教師用指導ポイント集』」）を使用し、展開例に基づき、生徒の実態に応じて指導を展開した。授業のねらいは次のとおり。

- ① 日常生活や職業上での性差が絶対的でないことを理解する。
- ② 将来の生き方について社会的性別にとらわれない視点を持つ。
- ③ 性差を理解した学級づくりの視点を持つ。

前時に、ワークシートを利用し、「女らしさ」「男らしさ」についてのチェックシートや家事分担表を活用した授業を行ったところ、生徒は興味を持って取り組んでいた。本時においても、男女の分け隔てなく友人の意見も聞き入れながらそれぞれの設問に対して、意欲的に取り組むことができた。

児童・生徒の感想

- ・ 男女の偏りが少しはあると思った。やっぱり、男性がやるような仕事を女性が、女性がやるような仕事を男性がやると違和感があると思った。
- ・ 女性と男性では見た目やイメージが違うということがわかりました。
- ・ 考えてみると、女性と男性は結構区別されているということに気づきました。CM を見てみると女性と男性がはっきりと分かれていることにびっくりしました。
- ・ 今日の授業で男女の偏りがたくさんあることがわかりました。性差が身についていることがわかりました。

参観者の感想

- ・ 授業を通して、生徒の性差意識の根強さを思いました。「教え」なくても自然にわかる、自覚できる進め方、大変勉強になりました。
- ・ 自分が思っている以上に生徒達が気にしていないのではないかと感じました。自分の感覚と生徒達の感覚が必ずしも同じではないということに気づかされました。
- ・ ジェンダー自体、曲解されることが多いテーマの中、今日の授業は違和感なく入っていけることに驚きを感じました。
- ・ 生徒一人ひとりが学習内容に興味関心を示し、積極的に活動している姿が印象的でした。雰囲気作りの大切さを教えられました。自分が授業者だったらどう教えていくか、固定観念ができあがっていないかなどいろいろと考えさせられました。

指導者の感想

今回の2時間の授業実践を通して、生徒の発達段階に応じ、男女平等について真剣に考え、友人の考えや意見に気づき、驚き、今後の生活の中で学んだことを生かそうとする態度が少しではあるが育成されたと考える。ここで学んだことが生かせる事後指導の充実を図りたい。

県立大沼高等学校

教科名等：家庭科「家庭総合」

単元(題材)名：生命を育てる

発達と保育へのサポート

学 年：第3学年

実施状況

子育てを通して男女共同参画の在り方を考える機会とするため、男性の育児休業取得者の体験記を班別に準備し、ワークシートにまとめて発表させた。現在、男性の育児休業取得率を上げるために様々な取り組みがなされているが、取得率はまだまだ目標にはほど遠い。そのような中で積極的に男性が育児休業を取得した事例を知ることにより、性別に関係なく、男女の協力の下で子育てに積極的に取り組む姿勢を育みたいと考えた。



児童・生徒の感想

- ・ 夫婦一緒に子育てをするということは、夫婦のコミュニケーションが深まり、仲も良くなるだろうし、何より、子どもに対する“愛おしい”という気持ちがより一層膨らんでいくと思うと、将来の子育てがとても楽しみになった。
- ・ 育休を取っている男性の少なさに驚いたが、職場環境などを考えると育休を取るのが大変だということが理解できる。その中で積極的に育休に取り組む人も多くて素晴らしいと思った。
- ・ 育児は一生に一度しか経験することができないので後悔したくない。育休がとても大切な制度だと思った。また、世の中が男性の育児休業取得について理解して積極的に勧めてくれば、女性の負担も減ると思った。
- ・ 将来、夫にも育児休業を取ってもらいたいと思った。事例の中に、上司からの勧めで短期間取得したものもあったが、きっかけは主体的ではなくても、結果として理解が深まっていた。このことから、理解も必要だが制度を整えることも重要なのだと分かった。



参観者の感想

- ・ 育児休業取得者の体験を資料として使用したことは、育児休業について身近な資料として捉えることができたと思われる。班ごとに事例が異なるので、共有化を深める工夫もほしかった。班ごとに話し合った内容を発表する場面では、生徒の発表や聞く態度も良好で本時の学習課題に真剣に迫ろうとする取り組みが見られた。
- ・ 男女共同参画社会の実現という視点で、高等学校第3学年の「家庭」の授業がどのように行われているのか、大変興味を持って参観した。教師側が用意した資料もA4の両面と読解力を要する内容であるが、各自熱心に読んでワークシートに答えようとしていた。課題に対して意欲ある取り組みが見られた。

指導者の感想

卒業を間近に控えた生徒に、男女が協力して子育てに関わろうという意識を抱かせるよいきっかけにできたように思う。社会人となった時に、子育てを支援する様々な制度があることを理解させ、主体的かつ積極的に取り組んでいる良い事例に触れることによって、前向きな考え方を導き出すことができた。参観者の助言を踏まえ、授業の展開や時間配分の工夫・改善に努めたい。

いわき市立好間第二小学校

教科名等：道徳

単元(題材)名：家族愛

学 年：第1学年

実施状況

家族の愛情に触れ、家族を敬愛しようとする心情を養うことをねらいとし授業を行った。主人公アンデスの家族を思う気持ちに共感させるため、役割演技を取り入れた。また、終末では、心のノートに書いてもらった家族からのメッセージを読むことで、自分が家族から大切にされていると感じることができるようにした。

児童・生徒の感想

- ・ 「アンデスみたいにおかあさんにつくってもらったものを大切にするよ。」
- ・ 「おかあさんからおてがみをもらってうれしかった。」
- ・ 「おかあさんやおとうさんに『ありがとう。』っていいいな。」

参観者の感想

- ・ 子どもたちが、資料の中に主人公に共感できる部分を感じているものが分かり、積極的に手を挙げていて良かった。
- ・ 手作りにこもった愛情や思いがぬくもりとして伝わってくるのだと思う。心のこもった食事を作ってあげたい。
- ・ 男の子、女の子に関係なく、お母さんに対する気持ちは同じなのだったと思った。観にきて良かった。
- ・ 親として子どもにどう接してきたかを振り返る機会になった。ぜひ、もっとたくさんの親に観てもらいたいと思った。

指導者の感想

「ふくしま教育週間」に実施したので、自由参観であったが、他の学年の保護者や他校の先生にも参観していただくことができた。

まだ1年生なので、男女共同参画社会については難しいが、この時期から、家族と助け合って生活したり、友達と男女を問わずに仲良くしたりすることが、男女共同参画社会の基盤になっていくのではと感じた。

いわき市立川部中学校

教科名等：道徳

単元(題材)名：男女の協力

学 年：第3学年

実施状況

「無人島に生きる」という資料で、男女の協力についての授業を行った。無人島に漂着した男女それぞれ3名の計6名が約半年間どのように生き延びたかをグループごとに考えさせ、各グループの意見から、男女の理解、協力することの大切さについて理解を深めさせた。実体験することができないような内容であったが、生徒たちは、イメージをふくらませながら楽しく考え、学習することができた。また、振り返りの段階では、夫婦茶碗の写真を提示し、「どちらを選ぶか」の問いから、ジェンダーについても考えさせた。

児童・生徒の感想

- ・ 改めて男女ともに協力することの大切さがわかりました。
- ・ 男はこうとか女はこうとか関係なく、平等に協力し合って生活することが大切である。
- ・ 一人一人の可能性で、男女問わず行動して社会をつくっていくこともできると思った。
- ・ 男女の違いはたくさんあって、でもそれにかかわらず協力することが大切だと思った。
- ・ まだまだ男女で不平等なところがあるけど、その穴を協力して埋めていけばよいと思う。

参観者の感想

- ・ 授業での話し合い活動の中で、無人島で生き延びるためには、男女の協力が欠かせないものだというのを感じとっていたようである。
- ・ 職業に関する写真を見る場面では、性差による固定観念にとらわれず、一人一人の個性に応じて、自分の良さを生かして社会の中で役割を果たしていこうとする意欲が感じられた。

指導者の感想

今までも男女の仲が良く、助け合い、協力して生活できる学級であったが、今まで以上に男女がお互いにそれぞれを尊重し、協力し合うような場面が見られるようになった。また、学校生活だけではなく、家庭生活においても、両親や兄弟などのそれぞれの役割について考えさせるよい機会になった。学級活動などの時間を使い、さらに男女共同参画社会について理解を深めさせていきたいと思う。

県立四倉高等学校

教科名等：ロングホームルーム

単元(題材)名：「男らしさ 女らしさって何だろう？」
～男女が互いに理解し合い、協力し合うためには～
学 年：第1学年

実施状況

普段何げなく感じている「男らしさ」「女らしさ」について考え、本当の男女平等とは何かを考えさせる機会とした。数年後の将来像をイメージし、家族において、また社会において男女がどう協力すべきかについて話し合った。展開にあたっては事前にアンケートを取り、生徒が持っている「男らしさ」や「女らしさ」のイメージや将来の異性に求める理想像について生徒の実態を把握しながら、家庭において男女がどう協力すべきかを学年教員へのインタビューの映像もまじえて展開した。



児童・生徒の感想

- ・ 授業を通して男女が選んだ理想像は「やさしい人」であることがわかった。「男女共同参画社会」とは、男女が「こうあるべきである」という考えにとらわれず、自分らしくお互いに助け合いながら共に生きる社会であるということがわかった。近い将来、結婚して楽しく生活をしていくためには、自分に非があるときには素直に謝ることや親を大切にし責任を持って生活すれば良いことがわかった。(1年男子)
- ・ 私がこの授業で女性だからと家事を全て任せるのではなく、男性も家事に参加して夫婦助け合うべきなんだと思いました。先生方のインタビューも夫婦円満の秘訣が聞けてよかったです。(1年女子)

参観者の感想

- ・ 我が家では夫がとても協力的でとても温和です。子ども達もその姿を見ていて、長男は家でもいろいろと手伝ってくれます。まずは親がお手本だと思います。
- ・ 事前アンケートをもとにクイズ形式で授業を展開するなど生徒の興味を引くための工夫がたくさんされており、日頃から生徒と深くかかわっていることが伝わってくる授業で、大変楽しく拝見させていただきました。他の級友の意見を聞くことにより、自分の考えを深めることができたのではないかと思います。

指導者の感想

授業では、生徒が日頃思っていることを取り上げ、ランキングを作ることによって、生徒の考え方の傾向をつかむことをねらいとしました。異性に対する理想像は、物質的なことや表面的なことよりも精神的なことを大切に思う生徒が圧倒的に多いことがわかり、私自身も生徒も共に驚き、新鮮な思いを抱くと同時に心が温まりました。とにかく始めは身近な話題で興味が持たせることを目標に授業を組み立てました。今後はどのように男女が協力し合っていくべきかということについて、生徒が話し合う形につなげていきたいと考えています。

